

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	経済統計学研究	不可

問 1 (10 点)

「算術平均」を求める式を記しなさい

問 2 (10 点)

母集団データから「分散」を求める式を記しなさい

問 3 (10 点)

標本データから「分散」を求める式を記しなさい

問 4 (15 点)

問 2 および問 3 の式の相違点について、「自由度」の観点から説明しなさい

問 5 (10 点×2)

$$\{x_i\} = \{20, 60, 30, 50\}$$

上記数列を母集団データとみなし、分散および標準偏差を求めなさい

なお、解答が小数になる場合には、小数点第 3 桁を四捨五入し小数点第 2 桁までを記すこと

問 6 (15 点)

国内総生産において、支出側の構成要素について、簡潔に説明しなさい

問 7 (10 点)

実質 GDP を Y とするときの、「経済成長率」を求める式を記しなさい

問 8 (10 点)

実質 GDP を Y、消費支出を C とするときの、消費支出の「寄与度」を求める式を記しなさい

# 令和8年度 国土舘大学大学院入学試験

## 出題の意図と採点のポイント

研究科名	経済学研究科 経済学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般選考
試験科目名	経済統計学研究

### ■出題の意図

- ・問1、問2、問3、問7、問8については、経済統計学において再頻出ともいえる数式を記すだけの問題であり、確実に書けるだけの知識を持っておいてほしい。
- ・問4については、「分散」を求める式についての説明を求めた。母集団データから求める方法では分母に  $n$  を、標本データから求める方法では分母に  $n-1$  を使う。分母に自由度  $n-1$  を使うことで、母分散に近い値をより正確に推定できるようになることを説明してほしい。
- ・問5については、変数が4つからなる数列より、「分散」および「標準偏差」を求める。問2の数式が分かれば、簡単に求めることができるであろう。
- ・問6については、国内総生産（支出側）の構成要素を簡潔に説明してほしい。最低限でも、民間最終消費支出、総資本形成、政府最終消費支出、輸出、輸入（控除）には触れてほしい。

### ■採点のポイント

- 問の後ろに記した採点基準に沿って、100点満点にて評価をする。
- 問1、問2、問3、問7、問8の式を記す問いについては、正確に書けていることが必須である。
- 問5の計算問題については、式を理解していれば十分に解ける問題となっている（標準偏差を求める際、分散の値となる250の平方根を、 $5\sqrt{2 \times 5}$ とすることで、電卓を用いずとも解答にたどり着いてほしい）。
- 問4・問6は、十分な説明がなされているかどうかによって、部分点も含め採点を行う。